

# 平成31年度 学校自己評価システムシート ( 県立久喜高等学校 定時制 )

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。 2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。 3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	1名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施 令和2年2月12日
1	落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等が少なくない。また個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を実施することが必要である為、全教職員の共通理解の下で生徒の支援を行う必要がある。	○コミュニケーション能力、基礎学力等の向上、学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の一層の充実 ○保護者と連携し、個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①生徒の登校・授業への出席を習慣化させるため、保護者への連絡を密に行い、全教職員で情報を共有し、日常的に指導を行う。 ②個に応じた授業を実施するため、生徒の実態を的確に把握し、基礎学力が不足している生徒等には、教員や支援員等による組織的で継続的な始業前補習等を行う。	①出席率の上昇が実現できたか(昨年度89.8%)。 ②4月から教員や支援員等による組織的な補習体制が実現できたか。また成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか(昨年度、成績優良者18.4%、欠点保有者18.7%)。	教員間の情報共有や保護者への連絡などは概ね達成できた。各教員が個に応じた授業を実施、展開したことで成績の改善が見られた。 ①1、2学期の出席率は89.3%とほぼ横ばいであった。 ②2学期の成績優良者は20%、欠点保有者は0人となり改善がみられる。	B	個に応じた授業展開がみられるが、組織的な取組までには至っていない。中学時よりも家庭学習をしているとの回答は生徒アンケートでは67%に留まっている。基礎学力向上が課題である。 始業前補習や授業補助を、早期に実施できるよう、学習サポートを年度当初から配置したい。	・家庭学習にも力を入れて学力をつけ、漢検、英検などの資格取得を目指してもよい。しかし、実際はアルバイトなどで時間がとられ勉強する時間が取れない。 ・多様な生徒がいる中で、成績優良者や欠点保有者0人を達成したことは、生徒の努力と教員の指導の成果だと思います。ぜひ続けてもらいたい。
2	生徒の問題行動も少なく昨年度の生徒指導案件は0件であった。今後も、多様な生徒が在学している中、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。また交通事故ゼロに向けた取組の継続が必要である。 1学年より進路意識を高める行事を実施している。卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実 ○生徒の進路希望を踏まえ、第1希望を実現する組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①問題行動やいじめ等の未然防止に努めるため、年3回の三者面談を継続する。 ②交通安全に関する意識を向上させるため、年3回の交通安全指導を継続する。	①問題行動、いじめ等の早期発見と未然防止が実現できたか。 ②交通事故発生件数ゼロが実現できたか。	三者面談やいじめアンケート、交通安全指導を定期的実施することで、安心・安全が学校生活を確立できている。 ① いじめ認知件数0を継続中 ② 交通事故発生件数0を継続中	A	本校ではいじめによる差別や人権を尊重していると回答した割合が生徒では8割以上、保護者では9割以上があてはまるとしている。安心、安全な学校生活が送れるよう指導を継続する。	・高校生である自覚を促す指導は行えている。 ・いじめ件数、交通事故ともに0であることは、学校が安全・安心な場であり、生徒たちにとっても素晴らしい学校である。今後も続けてもらいたい。
3	学校情報を様々な場面を通じて発信している。今後も地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する必要があると同時に社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。	○工夫・改善した積極的な学校情報の発信	①行事・LHRの時間等を活用し、段階的なキャリア教育を各学期に実施する。 ②生徒の進路希望に応じた指導を希望が実現するまで継続する。 ③進路意識を高揚させるため「高校生自立支援事業」等を活用し、進路に関する講演会、就労体験等を行う。	①行事・LHRを活用した進路指導が計画的に実施できたか。 ②卒業時の進路希望100%を実現できたか。 ③組織的、計画的に進路講演会、就労体験等を実施し、生徒の満足度が増加したか(昨年度94.0%)。また、生徒が希望する企業等で就労体験が実施できたか。	各種行事や授業を通じて、生徒の進路意識の向上が見られ、卒業予定者の9割以上が進路を決定している。 ①年間計画に基づき進路指導を実施。本年度は、3月に職業興味検査を実施予定。 ②進路希望実現は、ほぼ達成できている。 ③生徒アンケートより、進路について考えるようになった者は79%であった。就労体験は12月に実施1年4名、2年2名が参加した。	A	学校情報の発信は継続する。H・Pや学校新聞の内容について検討し、定時制への理解をより広める。また、今年度、生徒の感想を掲載したが、次年度もより多くの生徒の声を載せたい。	・学校新聞やH・Pの更新は大変だと思いが継続してもらいたい。 ・学校新聞は、近隣住民も見ている。御校への理解が深まっていると思われる。真面目な生徒が多い印象がある。 ・生徒会新聞の発行も検討し、できるだけ生徒の声を届けられると良い。 ・説明会も参加者が増えていることは良い。